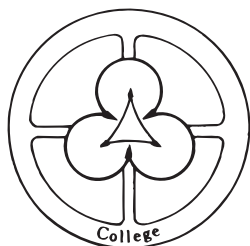


# 翻 明

— SHINONOME —



2021年度

(松山東雲女子大学・松山東雲短期大学 チャペル・トーク集8号)

「われ、<sup>しのめ</sup>黎明をよびさまさん。」（『詩篇』 57：8）

## はじめに

『黎明』をお届けします。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、チャペル・アワーは六月の上旬から行われ、讃美歌は奏楽のみの演奏となりました。しかし、この状況のなかでも出来ることを考え、チャペル・アワーを守ることができたのはこの上ない喜びです。

チャペル・アワーの歩みが守られたのは、講話を賜って下さった方をはじめ、学生、教職員の皆さまの奉仕によるものです。早朝から、毎週ご準備くださったキリスト教センター員、奏楽をご担当頂きました先生方、学生奉仕者の皆さまに心より感謝申し上げます。今年度のテーマは「共同体で生きる」で「一人よりも二人が良い。共に労苦すれば、その報いは良い。」（新約聖書コヘレトの言葉四章九節）という聖句になります。

これからも私たちが他者と共に歩み続けることができますよう、ご一読頂ければ幸いです。

## 目次

〈二〇二二年度新入生歓迎チャペル・開学記念チャペル〉

図々しく前進しよう……………松山東雲学園 理事長 小西 靖洋 3

人は社会性の強い動物……………女子大学・短期大学 学長 高橋 圭三 7

〈春季特別礼拝〉

必要な時間……………日本ホーリネス教団 松山桑原キリスト教会 牧師 安井 光 16

〈二〇二二年度後学期始業チャペル〉

チャペル・アワーのテーマについて考える……………女子大学副学長／心理子ども学科 教員 森 日出樹 20

楽しい学生生活を送るために……………学生支援部長／短期大学保育科 教員 河内 奈穂 22  
友だちと一緒に過ごすうえで大事なことは何だろうか？……………キリスト教センター長／短期大学保育科 教員 楢林 衿子 23

コンピュータと共同体……………短期大学現代ビジネス学科 学科長 若原 拓己 25

スポーツ栄養の視点から共同体について考える……………短期大学食物栄養学科 教員 栗原 和也 32

〈アドベント・チャペルⅠ〉

周縁化された世界に響く福音……………松山東雲学園 宗教主事／中・高教諭 水島 祥子 34

〈クリスマス・チャペル・二〇二二年度終業チャペル〉

社会脳……………女子大学・短期大学 学長 高橋 圭三 37

## 二〇二一年度新入生歓迎チャペル・

### 開学記念チャペル

### 図々しく前進しよう

松山東雲学園 理事長

小 西 靖 洋

おはようございます。理事長の小西と申します。本日は貴重な時間をいただきましたので、少しでも話をさせていただきます。当初は五月十一日に話す予定でしたが、コロナウィルス感染がここ愛媛でも広がり、蔓延防止等重点措置が実施されましたので、感染を避けなければいけない状況となったため、今日の話となった次第です。

昨年からはまったコロナ騒動は、全世界に蔓延し、すでに一億七、三三〇万人以上の人々が感染、三七二万人を超える人々が命を失っています。感染する対象年齢も幅広く、小さな子供から、若者のもとより、お年寄りまで、多くの人々が感染し、亡くなっています。日本でも、七六万人以上が感染し、一万三、六六〇人がすでに亡くなっているなど、医療崩壊が生じたところがあります。また

にコロナウィルス感染は世界戦争の状況を呈していると言っても過言ではありません。皆さんも決してコロナを軽く見ることなく、十分な注意を払っていただくよう強くお願いをいたします。

さて、本日の話のタイトルは、図々しく前進しようです。

前進する方法はいろいろあります。書物を通して知りえた中に、坊っちゃんて有名な夏目漱石が作家として世に出た芥川龍之介に送った書簡が印象に残っています。

「焦ってはいけません。ただ牛のように、図々しく進んで行くことが大事です。」

弱気になったとき歩みを止めてしまえば、そこまでの人間で終わってしまいます。大事なのは、他人の倍の時間がかかってもいいから、自分の目標を実現することです。そのためには、ある種の「鈍感さ」も必要です。他人の評価や批判、自分の遅れや、進捗など、あまり気にしないことが大事です。チャンスが来れば逡巡することなく、ただ牛のように図々しく進んで行くことも大切です。

精神科医の和田秀樹氏が選んだ「心が元気にな

る言葉」の中で紹介しています。皆さんもこの東雲に、なんの目的もなく入学したわけではないと思います。その目的達成のため、図々しく前進してほしいと思います。

しかし、「ただ頑張ります」だけでは物事は成就しません。やはりしっかりと基礎を身に付けて、それを応用する力を着けることが大事です。そのためにどうするのでしょうか。

私は、毎日バスで片道一時間ほどかけて通勤しています。そのバスの中で目にすることは、一〇人中六〜七人ぐらいがスマホを真剣に見ています。時々何を見ているのだろうと覗き込むことがあります。大の大人が一生懸命ゲームをしています。生産性のない時間を無駄にしているように思えて仕方がありません。時間は後戻りすることなく、前に進むのみです。一年は八、七六〇時間。すべての人に公平に与えられています。その時間の使い方により、絶好調で一年を終える人と、どん底で終える人に分かれてしまいます。決して時間を浪費しないよう心掛けてください。

最近、新聞の広告で丹羽宇一郎氏の「人間の器」という本を目にしました。早速購

入し、一気呵成に読みました。丹羽さんは、二、五三四億四、八〇〇万円の総合商社、伊藤忠商事の第九代社長・会長を務め、民間人で初めて駐中国大使を務めた方ですので、皆さんもどこかでお名前を耳にしたことがあるのではないのでしょうか。丹羽さんの本との出会いは「死ぬほど読書」という本を読み、これほどすごい読書家はめったにおられないと思ったのが始まりです。

その丹羽さんが「知識や教養といったものは、人間の器を作るのに欠かせないものです。」といっています。丹羽さんの本によると、

① 読書は、人間をつくる上で欠かせないものです。

② 読書は、世界をより広く知る手を与えてくれます。

③ 読書は、考える力を鍛え、想像力を伸ばし、人格を陶冶してくれます。

④ 読書によって得た知識は生きる力になります。知識をもたらし、教養を育んでくれる一番のものは、何といっても読書であり、その大切さを理解して頂けるアドバイス（読書のすすめ）ではないでしょうか。

読書の習慣はこどもの頃からつけるに越したことはありませんが、その楽しさに気づくのは、大人になってからでも決して遅くはありません。豊かな読書経験は、広い視野で物事を考え、柔軟な想像力をめぐらすことを可能にしてくれると考えています。

私の経験から思うことは、読書は自分の長い人生にとって有益であり、決して無駄になることはなかったということです。学生時代はあまり本を読んではいなかったのですが、社会人になってから随分と苦労をしました。文書を書いたり、人前で話をしたりするには中身が必要です。しかし読書不足ではうまくいきません。一念発起、一年に五〇冊の本を読むことを心に決め、それ以来、もう何十年と続けています。本当は学生時代の時間が十分にあるときに多くの書物に出会っておくべきだったでしょう。「後悔先に立たず」といわれても仕方がないところです。

先ほど大人になってからでも遅くはないといいましたが、皆さんも今からでも遅くはありません。是非読書の習慣をつけるよう努めてください。「一生懸命努力をすれば、どこかで必ずそれ

まで眠っていたDNAのランプが灯り、花開く時が来ます。成長のあかしであるDNAのランプが灯るのは、いつかわかりません。それでも日々ベストを尽くして努力を重ね、自分が信じたことをやり続ける。その果てにきつと花が開く瞬間があると思う。」と丹羽さんは述べています。

いやいや、そんな努力をすることなく、たまたまの運を掴むのがいいよと思う人もいるかもしれませんが。宝くじが当たることを期待し、仕事に身を入れないで、「運まかせの世渡り」を選ぶ人もいるかもしれません。が、決断していい結果は生まれないと思います。「悪銭身に付かず」といわれている通りでしょう。運とか運命も、ある程度、自分の努力によって作れるものであることを覚えておきましょう。

人間はとかく易きに流れるものです。楽しんで人生を終れないものかと考える人もいるかと思いますが、なかなか思うようにならないのが人生です。本の中に『日本人はなぜ自己肯定感が低いのか』という二〇一八年の内閣府の調査内容が掲載されていました。

日本の若者は海外の若者と比べ自己肯定感が極

端に低くなっています。初等・高等教育において自発的な思考を養う教育が欠如し、記憶することに重点が置かれすぎていて、自発的思考力が乏しいといわれています。正解を見つける教育でなく、指示されなくても、積極的に自ら考え、行動できるそのような環境を作る必要を痛感します。自分に満足しているかの調査では、世界の国々と比較し、30点から40点も差があります。なぜ、日本人の若者は、自分に満足できていないのでしょうか。長所をもっているかの質問でも、もっているとの回答で30点程度の差があります。物事に意欲的に取り組むか。との質問でも20点から30点の差がついています。これでは、世界の中で活躍することはできないでしょう。この自己肯定感とは、人間の器を作る上で欠かすことができないことなのです。

丹羽さんは「自信の大本となる自己肯定感が高いほど器は安定し、知恵と経験を積むほどに、それは大きく広がっていく」と述べています。

是非、皆さんには、東雲在学中に、人に誇れる、かつ自分を誇れる知識と経験を積んでいただきたいと願っています。

さて、私の話は、いつも愛媛県の誇る詩人、坂村真民さんの詩で終わることにしています。今回は「うしろを向かないで」という詩を紹介します。

うしろを向かないで生きてゆこう

後ろにはいつもいやな奴がいて

大きな手で先へ進むのをひっぱるのだ

あの手にかかる仕事がいやになるし

すぐに妥協する弱い人間になってしまふ

時計の針がいつときも休まず

前に進むように夢を持って生きよう

うしろを向かない波や風

彼等はわたしの仲間わたしの同志

コロナで毎日大変ですが、それを言い訳にして、楽することは考えないでください。自分の目標に向かって牛のように図々しく前に向かって進んでください。

ご清聴ありがとうございました。

(二〇二二年六月八日)

# 人は社会性の強い動物

女子大学・短期大学 学長

高橋圭三

今期のチャペルのテーマが「共同体で生きる」ということで、何かそれに沿ったお話をと考えました。といっても私自身小さな頃から母親にこの子は放浪癖があつて……とよく言われていたのをお願い出し、社会性という面では少々お粗末な人間かもしれません。そのような私の話にお付き合いいただければと思います。放浪癖……そういえば、同じ住所に永らく居を構えるということはなく、今までの人生のほとんどが一桁の年数で引越しをしていたように思います。ここ松山が私にとって一番永らく生活拠点として年数を重ねている土地です。今年で一五年目となりますが、これほど同じ場所で生活続けるのは人生始まって以来です。そんな訳で、共同体で生きるといっても地域社会の一員としての自覚はかなり希薄であつたように思います。ただ、仕事柄、子どもたちや職場の同僚、そして仕事がらみの他職種とのチー

ムワークという面では一つの共同体を意識することができていたのではないかと思います。しかし、生活する基盤としての地域社会、隣近所のお付き合いや相互扶助のような関わりはあまり意識したことはありませんでした。ところが、そんな私に降つて沸いたように輪番制ということもあつて、私が住む地区の自治会の区長が割り当てられました。私の生活圈での六丁目区長の範囲ではおおよそ百軒を超える家庭があります。一五年も住んでいるにも関わらず、隣近所の住人と親しく会話をしたこともありませんでした。朝、大学に出てきて夜帰宅という生活スタイルに単身赴任ということも相まつて隣近所の住人の顔さえも臆であることは承知しています。そんな私が生活拠点である地域社会の共同体の中で区長としてそこで生きるというのも奇妙な話です。しかし、自分自身のことを曝け出すよりも、一般的な理解として共同体で生きるといふことを私なりに考えてみようと思います。

さて、ヒトとチンパンジーの遺伝子は、九〇数%が共通すると言われています。しかし、ヒトがサルと決定的に異なるのは日常的に「直立二足

歩行」をしている点にあると言えます。ヒトとチンパンジーの祖先が分化したのは、二〇〇〇年以降の化石発見で、今では一〇〇〇万〜七〇〇万年前とされているようです。七〇〇から六〇〇万年前にヒトがチンパンジーと分岐し、常時直立二足歩行をするようになったようです。ここからがヒトというより、猿人としてのヒトの始まりといえるのではないかと思います。そして、三八五から二九五万年前にミトコンドリア研究からアフリカで見つかった化石のルーシーといわれる人類共通の祖先のアウトロピテクス・アフアレンシスがこの頃から始まるとされています。その後、二六〇から二四〇万年前にやっとヒト属が登場する訳です。さらに二〇〇から一万年前に旧石器時代があり、四〇から四万年前にホモ・ネアンデルタール人がいましたが彼らは絶滅したようです。そして、三〇万年前に現生人類であるホモ・サピエンスである我々の直接の祖先が地球上に現れたと言われています。このホモ・サピエンス、三〇万年の歴史を拡大すると……

近年の研究では現生人類のホモ・サピエンスとホモ・ネアンデルタールは約二六万年ほど共存し

両種族の間で交配もあつたようです。日本では縄文時代以前に旧石器人の人骨が縄縄で見つかり、ある文献によると約二万七千年程前から日本にヒトが住んでいたようです。ですから、現代のテクノロジーの時代は人類の歴史から考えるとほんの一瞬の出来事です。しかしながら、これまで人類が培ってきた文化の発展は加速に加速をして先に進んでいるように思われます。現代に住む我々は三〇万年前のホモ・サピエンスの時代からそれほど大きく遺伝子が変わったわけでもなく、身体などのベーシックな構造はそれほど変化しているわけではありません。我々人類の特性は狩猟採取していた時代から家族を核とした小さなグループで相互扶助の中で役割分担が自然と出来上がり、それによって非力な人類が地球上で最も繁栄することになったようです。

約七〇〇から六〇〇万年前、チンパンジーと分岐し、常時直立二足歩行を始めた猿人から現生人類まで進化してきた様子を考えてみましょう。直立二足歩行ができると、それまで移動手段であった前足が自由になり手という物を操作することが大幅に可能になります。一対一では狼や熊などの

動物よりも、ひ弱な人類が何故地球上で生物界の頂で生存できるのか。仲間を信じ、種の保存のために最善の工夫を繰り返し、その知恵を子孫に伝授し、文化資産を子孫に伝えそしてグループを大きくしていったからと考えることができます。過去の経験値を含め、不安を何らかの有形の形に創造するのも知能をもった人類の特徴であると言えます。誰も証明することのできない幽霊の存在も創造することができる知能をもった人類が創造した傑作かもしれません。犬や猫を含め動物は自然の脅威や多民族の攻撃に不安や恐怖を感じるかもしれないですが死後の世界を恐れるということとを聞いたことがあります。もし動物たち人間に伝えることのできる言葉があればどのように死後の世界を感じているのか聞いてみたいものです。しかし、死後の世界そのものは人類が創作した世界である事は間違いがなく動物たちにはこの死後の世界を想像する事はないであろうと思われるます。今となつては、眉唾物ですけど、臨死状態の六人の患者が亡くなった時、平均して二・グラムほど軽くなったという論文が一九〇七年に報告されています。犬ではその重さの消失がなかつ

たとして、人間の魂は死後身体を抜け出しその重さは二・グラムであると示されていました。これは映画にもなった有名な話です。ダンカン・マクドゥーガルという学者が発表しました。そして、この論文をもとに二〇〇三年に映画二・グラムが製作されました。しかし、幽霊もまた人類が創造した架空の存在であると言えます。もし本当に幽霊がいるのならば全世界の幽霊は全て同じ様な視覚情報を提供してくれるはずです。つまり全世界共通の姿であると言えます。しかしながら、日本の幽霊は脚がなく、中国の幽霊はキョンシーの様に集団でラインダンスをするし、首無し騎士のプレスト伯爵、パトリック・スウェイジとデミ・ムーアが出演したロマンチックすぎる映画「ゴースト・ニューヨークの幻」など世界の幽霊の姿に一貫性がないことから、それぞれの国柄によつて異なった姿をしています。つまり、幽霊はその存在が創造されたことがわかります。

近年では、幻影や幻聴を意図的にみたり聞いたりできるような仕掛けがあります。それは、経頭蓋磁気刺激装置(TMS)という医療機器を使用して急速に変動する強い磁場をヒトに当てる実験

で可能となります。TMSが発生させる磁場は、ヒトの脳の神経細胞に電流を流すのに十分な強さで、人体に害はありません。つまり非侵襲性であるということです。そしてこのTMSで脳の視覚野に磁場を集中させると被験者には光る円盤や線が見え、視覚野内のあちこちに磁場を移動させると、被験者は光が動いたと報告します。

同じような条件が日常生活の中も起こる可能性があります。例えば、墓石は花崗岩（御影石）を主な素材としています。そしてこの花崗岩の主要構成鉱物は、石英、カリ長石、斜長石、黒雲母、白雲母、普通角閃石などです。幽霊の出る環境を考えてください。日本では夏のお盆の時期に幽霊が目撃されやすいようです。これは、昼夜の温度差が原因と言われています。つまり、昼間に温まって膨張した墓石（花崗岩）が夜に冷えることで収縮して内部圧力が高まり電流が発生します。それによって磁場が発生して脳に影響すると、自分の中にある創造した幽霊像を幻覚として見てしまいます。鉄橋も落雷などで磁気を帯びますね。鉄橋から飛び降り自殺した人の幽霊というのも多く聞かれます。さらに、日本には活断層が多く、

地殻を構成する代表的な岩石として、花崗岩<sup>かこう</sup>があります。その花崗岩には、石英が多く含まれています。この石英は、圧力が加えられると、電気を発生するという性質を持っています。地質の研究から元々、存在していた割れ目が大規模にすべったり、割れたりすると電気を発生すると言われています。この電気（エネルギー）が、電磁波として地上へ放射されます。放射されたこの電気（エネルギー）が、私たちが生活する地上においてノイズとして存在しているのです。言い換えれば、純粹に科学のみで分析的に考えると靈感が強く幽霊を見る人は磁場の変動に過敏な人であるということもできます。

幽霊に限らず、人類は創造された精神世界・文化を仲間と共有することによって、それぞれのグループの絆をより強いものにしていったと考えられます。つまり、意識世界の中に共通の何かを持つことが、ひとつのグループを構成するともいえます。さて、ここで実験です。我々の人類の脳のある機能構造が確認されています。次に提示する図柄は一体何に見えるでしょうか。（モノクロのキリスト像・パリのエッフェル塔）エッフェル塔

の白黒写真はシミュクラ現象といい、人間の目には三つの点が集まった図形を見ると自然とそれが人の顔と見るようにプログラムされている脳の働きがあります。それをシミュクラ現象と言い、和訳では類像現象というように訳されています。人は他人や動物に出会った場合、敵味方を判断したり、相手の行動、感情などを予測したりする目的で本能的にまず、相手の目を見る習性があります。人や動物の目と口は逆三角形に配置されていることから、点や線などが三角形に配置されたものを見ると、ヒトの脳はそれを顔と判断してしまいうようにプログラムされています。

さてここで、東京大学大学院発達保育実践政策センターの「乳幼児期の非認知能力の意識等」で示された学力についての考え方を紹介しましょう。従来の学力は認知能力として七種＋二個で次のような認知能力です。

1. 文字を読んだり書いたりする力
2. 言葉で伝えたり聞いて理解したりする力
3. 数、図形、記号などを使ったり理解したりする力
4. 理科や科学に関する知識と理解力

5. 社会の仕組みや地理・歴史に関する知識と理解力

6. 英語など外国語の語学力

7. プログラミングなどの情報処理に関わる力  
それに加えて

1. からだを上手に使うことができる運動能力  
や健康に資する体力

2. お絵かきや音楽などの表現力・芸術的感性  
この対局にあるのが非認知能力です。これからの社会は非認知能力と言われる能力が重要であるとされています。非認知能力は、東雲の前身である松山女学校が開校当時から女子教育一筋に実践し、連綿と受け継いできた教育思想では無いかと私は思います。この非認知能力とは次の九種です。つまり、

1. 自尊感情
2. 興味・知的好奇心・内発的動機
3. 自己効力感
4. 忍耐力・グリット・エンゲージメント
5. 感情知性・EI
6. 共感・向社会性
7. セルフコントロール・自制心

## 8. 規範意識・道徳性

### 9. 協同性・協働性

保育現場等で話題になる環境構成はこの非認知能力を最大限発揮し、あるいは伸ばすことができるように配慮された環境刺激として人・物・事を構成する必要があるのでは無いかと思います。それぞれを簡単に説明すると

**自尊感情**…自分自身を好きだと思える心。

**興味・知的好奇心・内発的動機づけ**…物事に興味・関心を持ち、自分から進んで取り組む力。

**自己効力感**…自分にはできないと決めつけず、自信を持って取り組む力。

**忍耐力・グリット・エンゲージメント**…物事を最後までやり抜く粘り強さ。

**グリットとエンゲージメント**については重要なので次で説明します。

**感情知性・E**…相手の気持ちを読み取ったり、自分の気持ちを上手に表現したりする力。

**Emotional Intelligence** 感情知能

**共感・向社会性**…困っている人に共感したり、自分の気持ちを上手に表現したりする力。

**セルフコントロール・自制心**…大切な目標のた

めに目先のやりたいことを一旦我慢したり、固執せず柔軟に対応したりする力

**規範意識・道徳性**…生活習慣や社会的ルール、礼儀正しさを守ろうとする心。

**協同性・協働性**…他の人と協力して何かをやり遂げる力。

**グリット (Grit) じつ**

**Guts (度胸)** 困難なことに立ち向かう

**Resilience (復元力)** 失敗しても諦めずに続ける

**Initiative (自発性)** 自分で目標を見据える

**Tenacity (執念)** 最後までやり遂げる

困難に遭つてもくじけない闘志、<sup>きがい</sup> 気概や気骨などの意味を表す単語で、社会的に成功している方たちが共通して持つ心理特性として、近年注目を集めています。心理学者でペンシルバニア大学教授のアンジェラ・リー・ダックワースは、「才能やIQ (知能指数) や学歴ではなく、個人のやり抜く力こそが、社会的に成功を収める最も重要な要素である」として、「グリット」理論を提唱しました。現在、教育界や産業界をはじめ、さまざま

まな分野で反響を呼んでいる考え方です。グリットを提唱したアンジェラ・リー・ダックワースが、シカゴの学校で調査したところ、グリットをもつ学生は退学せずに、きちんと卒業していく確率が高いと分かったと述べています。教育現場では知的能力を測る最適な方法としてIQ（知能指数）が用いられていますが、学校で高い成績を収める秘訣は、IQや能力の高さではなく、時間をかけてじっくり取り組んで習得しようとする情熱こそが大切だとそこには示されています。つまりグリットとは、

- ・生まれ持った才能・知能は関係がない
- ・失敗を恐れず挑戦することが重要
- ・長期間、継続的に粘り強い努力を要する

このように、後天性のもので努力を重ねることによって、物事をやり抜く力のことをいうようです。ですから、繰り返しになります、グリットは生まれ持った能力ではなく、今からでも身に付けることができるものであると言えます。そしてまた、知識や才能がなくても、グリットを強く意識して実践に生かすことができれば、物事を成功に導くことができるとも言えます。近年は、才

能・知性・能力に加えて、成功者に共通するものとして、この四つの要素、いわば気持ちの入れ方、モチベーションをどう維持していくのかが注目を集めています。

エンゲージメントとは（約束や契約・婚約や雇用の意）

社員ひとりひとりが企業の掲げる「戦略・目標」を適切に判断し、自発的に自分の力を発揮する貢献意欲を指します。従業員の会社に対する愛情や思い入れを指す言葉であり、「個人」と「組織」が対等で、ともに成長できるという関係性を意味します。エンゲージメントを分解すると、主に三つの要素に分かれます。

貢献感…従業員が組織に貢献できていると感じるかどうか。

適手感…組織のカルチャーに自分がフィットしていると感じるかどうか。

仲間意識…メンバーと協調性を持って仕事ができているかどうか。

これらの要素を満たしていると感じると、組織に対し高いエンゲージメントをもつようになるようです。明らかに自分の所属する組織に前向きな

姿勢で組織そのものをより高みにもって行くための重要な要素だと思っています。やはり、これらのグリットやエンゲージメントの物事を最後までやり抜く力は自分自身の組織グループでの高い社会性の維持に貢献するものであると考えます。言い換えれば地域社会という枠組みの中で協調性をもって貢献でき地域社会を発展させる重要な構成員ということになると私は思います。こういった力が強いグループや組織、民族、そして種族は硬い絆で結ばれ、安心で安全な社会を維持できるのではないかと思います。私が埼玉県で発達障害支援センターのセンター長をしていた頃、ある県の精神保健センターで引きこもり青年たちの対応をしていた精神科医と飲み会で話題になった事があります。引きこもり青年たちを、老人施設にボランティアに派遣させたようです。彼らは老人の車椅子を押して散歩に連れ出す役割を用意して引きこもり青年たちを屋外に出でこさせようと考えました。ただ、引きこもり解消策だったはずですが、老人から感謝の言葉を聞く毎に当初は嫌々車椅子を押していたのだけれど、徐々に積極性が出てきて引きこもりを止め、さらに介護士の資格を取る

うと勉強を始めた青年もいたと聞いております。人は人と交わる事でその存在感を再確認でき、この世に生を受けた喜びを実感できるというのは彼らの行動変容から如実に私たちに伝わってきた事実です。

以前、チャペルでお話した中に「敬天愛人」を紹介したことがありました。これは、クリスチャンであつたといわれている西郷隆盛がよく口にした言葉です。この敬天愛人の意味はキリスト教では神を敬い隣人を愛するということのようです。私は現生人類の出現からの歴史を考えると穏やかな自然、荒れ狂う自然その様な自然の全てを認め、地球社会で平和に生きると解釈したいと思います。時には牙を剥く自然に共同体として立ち向かうことで地域社会に生きる人の絆や和がより強いものとなると思います。

最後に、ミトコンドリアが女系を遡る事ができるのに対してY染色体は男系を遡ることが出来ます。近年のY染色体のDNA研究で日本人に特有のY染色体があり、日本以外のアジアにはチベットの除いて見られないそうです。チベット人のY染色体は日本人のそれとよく似ていますが系列が

同じというだけで全く同じということではない様です。つまり、日本人の祖先の男性は日本列島以外の国へ進出しDNAをその地域に残すということとはなかったと考えられます。南方由来、大陸由来のDNAを受け入れた痕跡はあるということは本来、日本人の古い祖先は好戦的ではなかったとDNAが物語っており、受け入れることと絆や和が重要な価値をもっていたのではないかと推測できます。

(二〇二一年六月一五日)

## 春季特別礼拝

### 必要な時間

日本ホーリネス教団

松山桑原キリスト教会 牧師

安井 光

ルカによる福音書一〇章三八〜四二節

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思ひになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

今日は、このように東雲大学のチャペルアワーにお招きいただきありがとうございます。私は、

こちらから一番近い同じ町内にある教会の牧師をしています。今回、東雲大の皆さんに聖書からお話をさせていただけのことを嬉しく思っています。

ここに集っておられる方の多くは一年生とお聞きしています。昨年の春先から新型コロナウイルスの感染拡大によって世の中は一変しました。不自由な生活を余儀なくされ、学校の活動や個人の行動にもできないこと、またしなければならなかったことが増え、皆さんそれらに対応しながら過ごされたことでしょう。コロナ禍は明けていませんが、大学生として新生活が始まり、色々な変化に戸惑いを感じ、疲れを覚えている方もおられると思います。私は子どもが二人いますが、下の子どもから大学生になり、授業や課題など高校とは勝手が違うので苦労しているようです。この中には短大生もおられますが、短期間でたくさんのお話を学び取らなければならないので、特に忙しくしているのではないのでしょうか。

さてお読みした聖書箇所は、「マルタとマリア」という二人の姉妹の物語です。ここには登場しませんが、二人にはラザロという男の兄弟もいまし

た、兄弟三人で仲良く暮らしていたようです。彼らはイエスのことを尊敬しており、イエスと親しい関係にあったようです。イエスもこの兄弟姉妹を愛され、彼らのことを友と呼んでいました。イエスが彼らの住む村を訪れた時、マルタはイエスを家に迎え入れました。マルタは働き者で世話好きな女性でした。マルタはイエスに喜んでもらうと一生懸命もてなしたのです。

ところが、マルタは忙しさのあまり心を取り乱してしまします。イエスに不満を訴えるのです。「主よ、妹は私だけに何てなしをさせています。それをご覧になって何とも思わないのですか。妹にも手伝うようおっしゃってください」。マルタは妹のマリアが自分だけに接待をさせていることに怒りを覚えたのです。その怒りの矛先はイエスに向けられました。これでは、せっかくのおもてなしが台無しではないでしょうか。

マルタは接待をするのが嫌になったのではありません。妹の態度はおかしい。主が妹に何も言わないのはおかしい。二人はおかしい……とマルタは思ったのです。でも本当におかしくなっていたのはマルタ自身だったのです。イエスはマルタに

対し、「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している」と言われました。マルタは忙しさのあまり、心を取り乱してしまっていた。心が本来あるべきところに落ち着いておらず、また向かうべきところに心が真つ直ぐに向かつていなかったのです。自分がどこにいるのか、自分が何をしているのかが分からなくなっていたのです。

妹のマリアは何をしていたのでしょうか。マリアは「主の足もとに座って……話を聞き入っていた」のです。マリアは何もしないで怠けているように見えます。この場面だけを見れば、そう見えるかもしれませんが。マリアの態度は、マルタの能動的で行動的な態度と比べると、受動的で受け身の姿勢です。マルタが「動」だとすれば、マリアは「静」の態度です。マリアは普段から姉だけに家の仕事をさせて、いつも怠けていたのでしょうか。そうではないと思います。おそらく姉のマルタと一緒に働いていた。いつも姉さんの手伝いをしていたと思います。でもイエスが家に来られた時にはイエスのお話を集中して聴きたいと思い、そのことだけに心を注いだのではないでしょう

か。

人間の目から見れば、マリアよりもマルタの行為の方が評価されるでしょう。マルタは一生懸命イエスをもてなしたのだから、マルタの方が正しい、マルタはエライと思われると思います。イエスもマルタのもてなしを有難く思っておられたことでしょう。マルタはよくやっている……、そう思われたでしょう。しかしイエスはそんなマルタにも、今やっていることを一旦止めて、心を静めて自分の話を聞いてほしいと願っておられたのです。イエスはマルタにこう言われました。「必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」。

皆さん 毎週このようにチャペルに集まって、先生方のお話を聴く時間を持っておられます。これはとても大切な時間だと思います。この時間は神に礼拝する時間としても設けられていることでしょう。皆さんにとって「必要な時間」ではないかと私は思います。

現代はネット社会とも言われます。インターネットが生活に必要なツールとなりました。ネットにつながれば必要な情報を入手できま

す。コロナ禍でネットを介してのコミュニケーションが急速に広がりました。人間の悩みや疑問の答えも、ネットで探せばすべて見つかるというような錯覚さえ起こしてしまっているのです。でもそうではないと思います。対面で交わりを持つこと、命の通うつながりが必要です。友との交わりもそうですが、神との交わりを持つこと、静かに聖書に耳を傾け 祈る時間も必要ではないでしょうか。

カトリック教会の修道女のマザー・テレサ。貧困に苦しむ人々、人に顧みられず孤独に死を待つ人々の傍らに生涯かけて寄り添った女性です。彼女は行動の人でしたが、愛のわざを行うのと同じくらいに、神の前に静まる時間を大切にしました。年老いるまで精力的に活動し続けたバイタリティーはどこから来ていたのかと思います。が、そういう質問がなされた時、彼女は「私の秘密は祈りにあります」と答えています。

具体的にどのようなしていたのか、彼女は次のように説明しています。「仕事の最中でも、祈ることはできます。仕事は祈りを妨げないし、祈りもまた仕事を妨げることはないので。ただほ

お祈りしています。

(二〇二一年六月一五日)

んの少しだけ心を神に向けるだけでよいのです。『愛しています』『お任せしています』『信じています』『神よ、私は今あなたが必要です』と。こんな感じがいいのです。これは素晴らしい祈りです」「人は祈ることで神に近づくことができます」と。

マザー・テレサが特別なのではありません。神は私たち人間をご自分にかたどって創造されたと聖書は教えています。「わたしの目にはあなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」と神は私たち皆さん一人一人に語っておられます。悩みや心にある重荷を神の許に降ろしていただきたいと思います。神が皆さんを慰め、励まし、力付けて下さいます。チャペルアワーが、皆さんにとって祝福された時間となりますように心から願っています。

大学生活においてはやるべきこと、またやりたいと思うことがたくさん出てくるでしょう。それらを行うためには時間が必要です。一つ一つの活動が充実したものとなるためにも、静かに心を落ち着かせる時間を持たれますように。皆さんの大学生活の上に、神の祝福が豊かにありますように

## 二〇二一年度後学期始業チャペル

### チャペル・アワーの

### テーマについて考える

女子大学副学長／心理子ども学科 教員

森 日出樹

チャペル・アワーには毎年テーマが設定されています。今年のテーマは「共同体に生きる」です。では、「共同体」とはどのようなものなのでしょうか？いろいろな考え方や視点があると思います。が、「共同体」を「近代」と比較して考えてみることもできます。

まず「近代」社会の特徴を考えてみましょう。例えば、私たちが持っているモノを見てみると、ほとんどがお金で買って手に入れたモノばかりなのではないでしょうか。近代の社会は何でも商品（お金を出して手に入れなければならぬモノやサービス）になってしまふ社会だと言えます。でも、お金とモノやサービスが交換される社会は人間関係がお金を介してつながることでもありません。交換が成立すればそれで両者の関係は終わります。

になってしまい、どうしても人間関係が希薄になりがちです。また、自分は自分、人は人といった考え方が強くなってしまうかもしれません。

「共同体」的な社会は、こうした社会とは対照的な社会だと考えることができます。つまり、何でもかんでもお金を出して手に入れる社会ではなく、お金で買えないものにあふれている社会だといえるでしょう。モノやサービスは商品ではなく、プレゼントというかたちで贈り・贈られるような社会です。プレゼント（贈与）には不思議な力があります。与える側は見返りを期待しないのですが、与えられた側は「借り」ができたような気持ちになり、お返しをしなければならぬと思っています。そして、お返しをする。すると、お返しをされたほうも、またいつか、そのお返しをするといった具合に、人々は終わりのない贈与の輪をつくりまわします。人々の深いつながりができ、お互いが分け合ったり、助け合ったりするような社会がそこから生まれてきます。

実はこのような、分け合ったり、助け合ったりすることは人間にしかできない行為だと言われています。チンパンジーの利他行動の実験から、チ

ンパンジーも相手から要求されれば利他行動をとることがわかっています。しかし、相手から親切な行為を受けても、お返しはなかなかできません。つまり、「助ける」ことはできても「助け合う」ことはなかなかできないと言われています。

人間にしかできないこうした行為、そして、そこから生まれる「共同体」的な人と人とのつながり、大切にしたいですね。「プレゼント」と聞くと、そうした行為は年に数回ぐらいしか経験していないなど思ってしまうかもしれません。でも実は、私たちは日々、たくさんのプレゼントの中で生きています。例えば、私たちは親から多大なプレゼントをもらって成長してきた生き物でもあります。また、人からのちょっとした親切など、よく考えてみれば、たくさんの人に助けられ、あるいは、自分も誰かを助けながら、生活していると言えないでしょうか。親切にしてくれた人に直接お返しはできなくても、人から受けた同じような親切を、また別の人に自分がすること、（借りるを）お返しをしたような気にならないでしょうか。

人は人に「借り」をつくりながら生きています。

人間とはそうした生き物です。私たちは、「人に迷惑をかけてはいけない」、「つらい時でも、人に助けを求めず自分で何とかしなければならぬ」といった考えに縛られすぎてはいないでしょうか？ つらい時は人に頼ることができ、そして、人々が頼られることに寛容な、そうした「共同体」的な人間関係を大切にしたいものです。

（二〇二二年一〇月五日）

## 楽しい学生生活を送るために

学生支援部長／短期大学保育科 教員

河 内 奈 穂

一〇月一二日(火)、チャペル・アワーにて、学生支援部長河内奈穂先生より、「楽しい学生生活を送るために」を題に、学生生活をより楽しく安全に送られるよう、SNS利用上トラブルの回避、不審者・悪質商法・カルト・薬物乱用への注意等について、パワーポイントに沿って、講話をしました。講話の詳細内容は学生用HPに掲載しているので、是非ご覧ください。

(二〇二二年一〇月一二日)

## 友だちと一緒に過ごすうえで大事なことは何だろうか？

キリスト教センター長／短期大学保育科 教員

### 楢 林 衿 子

皆さん、おはようございます。東雲短期大学保育科の楢林と言います。今日は「友だちと一緒に過ごすうえで大事なことは何だろうか？」というテーマでお話をしたいと思います。

まずはこちらのスライドを見てください。男の子と女の子が、何やら言い合いをしていますね。遊びに行く場所を海にするか遊園地にするかでケンカになっています。どちらも自分の意見を通して、相手のことを非難していますね。皆さんもこのような経験はありませんか？本当は相手と仲良くしたいですよ。なのにケンカになってしまうことがあります。このようなときはどうすれば良いのでしょうか。

相手とケンカをすることなく、自分も相手も良い気分であることが出来るようになるための一つの手立てとして選択理論心理学というものがあります。選択理論心理学とは、アメリカの精神科医

ウィリアム・グラッサーが提唱した心理学です。グラッサーは、我々が抱えている悩みの九〇％は人間関係の問題であるとし、身近な人との関係が良好であれば、私たちは幸せを感じられると考えています。この選択理論を学ぶ上で『基本的欲求』と『上質世界』という概念が出てきます。今日はこの基本的欲求と上質世界について簡単に説明をしたうえで、相手との良好な関係を構築できるためにはどうすれば良いかを考えていきたいと思います。

ではまず、『基本的欲求』について説明をします。選択理論心理学では、人は五つの欲求を持っており、これらが満たされないと不快になると考えます。五つの欲求を順に見ていきましょう。一つ目が【愛・所属の欲求】です。これは愛し愛されたい、誰かと一緒にいたいという欲求です。二つ目は【生存の欲求】とは食べたい、寝たいという生きるために必要な欲求です。三つ目は【楽しみの欲求】です。楽しいことがしたいという欲求ですね。そして四つ目が【自由の欲求】です。これは自分で決めたい、強制されたくないという欲求です。最後は【力の欲求】です。力の欲求とは、人に認められたい、誰かの役に立ちたいという欲

求です。これらの欲求は誰しも持っているものです。また、欲求に優劣はないと選択理論では考えます。

次に『上質世界』について説明します。選択理論では、人は持っている基本的欲求は同じですが、どのような方法で欲求を満たそうとするかは人それぞれ違いがあります。例えば、『楽しみの欲求』は誰しも持っていますが、人によって楽しみ方が異なります。カラオケをして楽しむのか、映画を見るのか、ドライブか、サッカーか……。それはその人それぞれですね。この方法で楽しみたいというイメージが頭の中に浮かんでくるのではないのでしょうか。そのイメージが入ってある脳の部分を上質世界と選択理論では言います。力の欲求を満たすために提出する課題の締め切りを守ったり、愛・所属の欲求を満たすために恋人との関係を大切にしたり、楽しみの欲求を満たすためにバドミントンをしたり、私たちが何か行動するときというのは、何かの欲求を満たそうとし、上質世界の実現を目指そうとします。

では、この基本的欲求と上質世界の視点で、先ほどのスライドの男の子と女の子の例を見てみましょう。女の子も男の子も楽しみの欲求を満たし

たいと思っています。しかし、上質世界にあるものが違います。女の子は遊園地、男の子は海が上質世界に入っています。お互いに自分の欲求を満たそうと、上質世界にあるものを押しつけあっているのがケンカになってしまふのです。

では、どうすれば良いのでしょうか。選択理論では、お互いの上質世界が異なるときに人はそれぞれ違う上質世界を持っていると考え、相手を変えようとするのではなく、相手がどのような上質世界を持っているのかを聴き、こちらの上質世界を穏やかに伝えるようにしています。その時には「傾聴する」「支援する」「励ます」「尊敬する」「信頼する」「受容する」「違いを交渉する」といった人間関係を築く七つの習慣を使うことが大切だと思います。七つの習慣を使いながら、人間関係の維持・改善を目指します。

私たちは人との関わり無しで生活することはできません。そして、私たちは誰しも良い人間関係を構築したいと思っています。そのために何ができるかを日々考えていきたいと私は思っています。

（二〇二二年一月一九日）

# コンピュータと共同体

短期大学現代ビジネス学科 学科長

若原拓己

## 自己紹介

現代ビジネス学科で情報関係（コンピュータ関係）を主に教えています。

出身大学は北海道の公立はこだて未来大学という情報系の単科大学です。

「共同体で生きる」というチャペルのテーマですが、今回はあまり難しい話ではなく、コンピュータを利用したコミュニティについてお話します。

雑学的なお話です。

## 仮想共同体

という言葉があります。ヴァーチャルコミュニティとも言いますが、主にインターネット上のコミュニティのことです。

そもそもインターネット自体が一種の仮想社会、つまり物質的な意味で存在する社会ではな

く、思念的とも言いましょうか、そのような社会形態となっています。

例えば、特定のWebサイトでは特定の人が集まる「テーマを持った議論や掲示板」、「オンラインゲームに参加する人たちのコミュニティ」、「趣味のあつまり」などがあります。

## パソコン通信とインターネット

まずは歴史的なお話といえますか、ネットワークの形態について軽くお話しておきます。

## パソコン通信について

一九八〇年代から一九九〇年代前半までが全盛。九四年ころにはインターネットの登場で下火になっていきました。

商業サービス自体は実は近年まであり、ASAHIパソコンネットなど二〇一九年迄サービスしていたものもあります。他に、有名どころだとNifty Serveが二〇〇六年迄サービスしていました。個人ではまだやっている人もいるかもしれません。

サービスとしては、BBS（掲示板）、チャッ

ト、ファイルライブラリなどがあつたそうです。

形態としてはホスト（サーバ）がありクライアントはホストにアクセスするという仕組みです。個人ホストだと複数のユーザーが同時に接続できませんでした。DOM（Download Only Member）やROM（Read Only Member）といった、提供無しに利用するだけのユーザは嫌われる傾向にあつたそうです。

パソコン通信で必要なものには、パソコン・ワープロ専用機、モデム、通信ソフト、電話回線があります。

## インターネット

九〇年代半ば、九四年くらいからインターネットが民間でも広まり始めました。

AppleやMicrosoftがOSをインターネット接続可能な仕様で販売したことから一般にも広まり始めました。

ただ、当時は従量制のダイヤルアップ接続であつたため、短時間で切り上げる必要がありあまり利用者は増えなかつたそうです。

深夜～早朝に使い放題（固定料金）になるサー

ビス（テレホーダイ）というサービスもありましたが、多くの人がその時間に利用するので混雑したそうです。

二〇〇〇年代からISDNやADSLといった定額制のサービスが出てきて一気に普及していきます、現在に続く通信手段となっています。

## ネット掲示板

ここからはどんなコミュニティ形態があるのかを紹介していきます。

## BBSと呼ばれるネット掲示板によるコミュニティ

パソコン通信時代では商用サービス、個人でやっているものと別れていました。

個人でやっているものに接続するとき、ホストとクライアントは1対1の関係（電話をしている関係）になるため、誰かがつなぐと他の人がつなげないといった事態にもなり、個人ホストだと複数のユーザーが同時に接続することはできませんでした。

掲示板では、会員制BBS（商用サービス）・

草の根BBS（個人）があり、草の根BBSではホストを探すためのBBS電話帳が出ていたそうです。

インターネットになってから（定額制になってから）は気軽に掲示板が使えるようになったといえます。

掲示板にも色々な形態（ツリー式やスレッド式など）あり、現在でも続いているコミュニケーション手段でもあります。

例えば、趣味のことを話したり、技術的な質問をしたりするフォーラムなど様々な話題が提供されています。

個人サイトレベルの物から大規模なものまであり、大規模なものでは2ちゃんねる（現5ちゃんねる）が有名です。「ハッキングから今晚のおかずまで」というキャッチフレーズで幅広い分野の話題が投稿、話されているようです。

ネット掲示板では、多くの場合ハンドルネームを使用、または何も入力しない匿名で利用されることが多く感じます。つまり個人名を記載するといったことはしないのです。

個人情報保護の観点から、そのような利用方法

を推奨しますが、実際のところは匿名の様に見えて匿名ではないので注意しましょう。掲示板サービスは書き込みをしたユーザーのIPアドレスを記録していますし、プロバイダーはIPアドレスをどの客が利用していたかを記録しています。それは、SNSなどでも同じです。

個人を明かさない、匿名ということでも過激なことを言う人も多いし、言葉遣いが悪くなつてしまう人もいますが、犯罪的なことを記載すると刑事罰を受けることになるので注意しましょう。

掲示板では、記録が残る、正確には残っているのが閲覧者全員で確認できるというメリットがあります。

古い話題や、質問と回答などを後から見たい人も確認できるため、技術的な質問などで現在も使われています。

## チャット

チャット＝会話、おしゃべりの意味です。

インターネットチャットのこと、ここではテキストベースのチャットをお話します。LINEをイメージしてもらえればわかりやすいかと思い

ます。文字ベースのリアルタイムコミュニケーションであり、パソコン通信時代にもあったそうです。

パソコン通信時代やインターネット初期では専用のソフト（クライアント）を使ってサーバ（ホスト）へ集まって利用することが多かったそうです。IRCなどの仕組みがありました。

ブラウザで利用できるチャットが出てからは専用のソフトは不要になり、さかんに利用されたのだと思います。実際私が大学生のころ（二〇〇〇年代初めの方）では友人間でよく行っていました。

掲示板と違い、多くの場合ハンドルネーム（もしくはIDや固有の識別子、ニックネーム）が必要で特定の個人と話している形になります。掲示板では特定のだれかというよりは不特定多数に話している感じになります。

ログ（記録）は残るが、掲示板ほどユーザーに分かる形では残ることは少ないのではないかと思います。

他にもオンラインゲームなどのコミュニケーション手段として残っています。最近ではボイス

チャットも多いですね。

現在ではLINEなどのSNSに吸収されている感じがします。

## 個人サイト・ブログ

個人が作るWebサイト（ホームページ）が二〇〇〇年代初頭に流行り、テキストサイトブーム（待魂など）がありました。

HTMLとCSSを使って文字に色をつけたり、文字サイズを変更したりして面白おかしいサイトを作るのが流行ったのです。もちろん技術的・知識的に有用なものもありましたが、サーバは有料（広告なし）と無料（たいていは広告あり）のもので無料の物はサイズ制限などもありました。

画像や動画はあまりなかった、というよりネット速度が遅かったのであまり好まれませんでした。

また、個人サイトに掲示板を設置してコミュニケーションをとるというのもありました。アクセスカウンタを設定してキリ番報告を義務付けてみたり、雑談をしたりといったことも行われていま

した。

他のWebサイトとのリンクを貼って辿れるようにしたり、相互にリンクを貼って仲良くなったというコミュニケーションもありました。

有名どころのサイトのリンクを貼ってあわよくば仲良くなろうという目論見のある人もいたのだと思います。

個人でサイトを作成するのは敷居が高かったところもありましたが、ブログサービスの普及で気軽に情報発信が行える世の中になりました。

HTMLなどの知識が無くても文字を入力して修飾して見た目の良いページ、テーマがあるので統一された見た目のWebサイトを簡単に作れるようになったのです。大雑把に言えばWordのようにWebサイトを作れるようになりました。

コメント機能などでコミュニケーションも取れるし、トラフィックバックという仕組みで引用をすることもできます。

## SNS (Social Networking service)

Web上で社会的ネットワーク（ソーシャルネットワーク）を形成しようとするサービスで

す。

古くから（なんならパソコン通信時代から）こういったサービスはあったが、Webページを作るにしても知識が必要であったり、ネットワークの構築（人脈的な意味で）が容易ではなかったりしました。

統一したページ（ブログ的な）作成方法・デザイン、メッセージ機能（メール的な）、ハッシュタグやコミュニケーション・グループなどといったつながりやすくする仕組み、おおよそコミュニケーションに必要なサービスを揃えていることが多いです。

会員登録をすればそれらのサービスを使い、コミュニケーションの形成、既存のコミュニティへの参加が可能となります。

また、ソーシャルゲームといった協力して何かを行うゲームといったものもあります。

日本では二〇〇四年のMixあたりが始まりでしょう。

SNSには、匿名制や実名制のものがあります。

匿名制は主に趣味嗜好の分野で使うことが多い

のではないかと感じます。昔からの流れでハンドルネームを使って利用する人は匿名制、必ずしも匿名でなければいけないというわけではなく実名でもよいという場合はあります。

実名制はそのまま実名制、本名で利用するものです。現実社会にもかかわるコミュニケーションを形成したい場合は実名制を使うことが多いと思います。Facebookなど、友人間を起点として仕事や趣味でつながる、人脈を広げるといったことが行われている気がします。

栄枯盛衰は激しくあらゆるSNSが出てきては流行って、下火になっていくイメージがあります。

冗談のようなそうでないような話として、若者がいるところにおじさんが来ると衰退すると言われていきます。つまり、若者は若者だけのコミュニティを形成したいのではないかと考えられます。

テキストベースだったネットによるコミュニケーション手段も、現在では画像・音声・ビデオとマルチメディア化が進んでいます。(インスタ、

TikTok、youtube、ライブ配信など)

技術の発展とネット速度の向上（ブロードバンド化）の恩恵ですね。

## オフ会

ネットで知り合った人同士が現実で出会うことです。オフラインミーティングなどともいい、古くから行われてきた文化です。

特にテキストベースのコミュニケーションを行っていた時代では、コミュニケーションをとっていた人を気に入った・仲良くなったとして、更に仲を深めたい、現実でもお友達になりたいといったことで行われるイメージです。

ただ、オフ会には移動が伴う（時間的・金銭的コストがかかる）ため、近場の人同士で集まるとか、何かイベントのついでに集まるといったこともありました。もちろんオフ会を目的として行うこともありましたが。

そこで仲を深めて、深い友人関係を築く、恋愛に発展するといったこともあったようです。

もちろん、詐欺や犯罪に巻き込まれてしまう危険性もあるので注意が必要です。

テキストベースのコミュニケーションでは感情が伝わりにくい、ということもありオフ会で出会ったときに印象と違ったということもあるそうです。

現在もなくなったわけではないですが、ライブ配信やビデオチャットなど顔と音声で会話ができる環境が整ってきているため、飲み会や会食がしたい、イベントを実施した際に行うなど以外ではあまり開かれなくてもいいかもしれません。

外じゃないとできないスポーツとかアウトドア関係の物は集まることも多いようですね。

## 結局のところ

ネットを介したコミュニティであっても相手は人対人

コンピュータの向こう側には人がいる

コミュニケーションには気を使いましょう

誹謗中傷など相手が傷つくことはしない

ネットを使えば離れた人ともコミュニケーションをとることができる

それこそ全世界の人と

知識の共有が世界中の人とできる

駄弁ってるだけでも楽しいですね

詳しい注意喚起はこの場ではしませんが、よく言われる注意（誹謗中傷はしない、むやみに個人情報報をさらさないなど）は守るようにしておきましょう。

せっかくなら楽しく使えるように。

先ほども言いましたが距離的制約はなく、それこそ全世界の人とコミュニケーションをとることができるので、便利に楽しく使うように心がけましょう。

（二〇二二年一〇月二六日）

# スポーツ栄養の視点から共同体について考える

短期大学食物栄養学科 教員

栗原和也

今年度のテーマは「共同体」ということなので、私が専門としているスポーツ栄養サポートの観点から考えたことをお伝えします。

スポーツ栄養サポーターは定期的な運動やトレーニングをしている人が主な対象となります。運動やトレーニングをしている人にはそれぞれ、「健康づくり」や「疾病予防・治療」、「競技力向上」といった目的がありますが、それぞれの目的に応じて食べ物や「何を、いつ、どれだけ、どのように摂取するか」を考え、提案・実践していくことがスポーツ栄養サポーターです。

アスリートは監督やコーチ、トレーナー、ドクター、リハビリ等、様々なスタッフから支援を受けながら一つのチーム（共同体）を作っています。例を挙げると競泳の「チーム北島」やテニスの「チーム大坂なおみ」等です。スタッフがそれ

ぞれの専門分野を持ち選手をサポートしています。誰がどういった指導をしているのか情報共有しながら関係していくことが重要になります。トレーニングの目的が「筋力向上」であった場合に、栄養サポーターで「持久力向上」のための食事指導をしていたら思うような成果を得ることができません。より良いサポートをしていくためには、各専門スタッフが実施したことをチームで情報共有し、選手、チームの目標（オリンピックで金メダル等）に向けて動く必要があります。また、情報共有を円滑にするためには、自分の専門分野だけでなく、他スタッフの分野についても勉強しておいた方が、スムーズに、そして他のサポート内容を理解しやすくなります。ただ、専門家が集まって一つのチーム（共同体）を作っている時に気を付けることは、他領域へ安易に踏み込まないということです。専門に勉強してきたことに対して、少し知識をかじった人が口出しすると、そこで不協和音が生じます。一人ひとりが担当する領域に責任を持ってサポートすることが専門家（プロ）であり、全員がその意識を持って取り組むことができなければ、自然と大きな力となり、効果的な

サポートが可能になります。

これまでお伝えしたことは社会でも同じことが言えます。栄養士や保育士といった資格を取得して卒業することは、その道の専門家（プロ）になるということです。学校を卒業して社会に出たら殆どの人は組織（共同体）に属しながら、これまでに勉強してきたことを活かして社会に還元していくことになります。保健・医療の分野では「質の高いサービスを提供するために、異なった専門的背景をもつ専門職が、共有した目標に向けて共に働くこと」を多職種連携と言います。自分がサービスを提供する相手は誰なのか、サービスの目標は何なのかをしっかりと理解し、専門家として自身の職責を果たすことのできる社会人となるための準備期間として大学での勉強に励んで欲しいと思います。

（二〇二二年一月二六日）

## アドベント・チャペルⅠ

### 周縁化された世界に響く福音

松山東雲学園 宗教主事／中・高教諭

#### 水島 祥子

マタイによる福音書一章一八―二一・二四―二五節

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリヤはヨセフと婚約していたが、二人が一緒にいる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリヤのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリヤを迎え入れなさい。マリヤの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリヤは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリヤと関係することとはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

クリスマスにはイルミネーションが灯され、街が華やかに色づきます。このチャペルでもクリスマスマスの四週前から克蘭ツ（冠）を用意し、週に

一本ずつろうそくを灯し、クリスマスの到来を楽しみに待ちます。クリスマスに使う克蘭ツやリース、ツリーが緑色なのは常緑樹を用いるためですが、「紅葉しない」いつも緑々永遠に変わらない神の愛」を表しています。

クリスマスにはツリーを飾る伝統がありますね。皆さんも幼い頃に家族でツリーの飾り付けをしましたか。一説によると、宗教改革を成し遂げたマルチン・ルターがきっかけで、ある月の綺麗な夜に、木々の枝に月明りが漏れて美しいと思つたルターが、室内でもこの美しさを愛でたいと、木を室内に持ち込みろうそくを灯したのが始まりだと云われています。

以前わたしが大学・短大の教員だった頃、聖歌隊の学生からこのような話を聞きました。自分たちがまだ小学生だった頃、兄妹三人でツリーの飾り付けをしていました。兄妹には暗黙の約束事があり、それはすべての飾りを付け終えてから天辺の星を飾る、というものでした。途中で、お父さんが「ただいま」と帰ってきました。さて、その後どうなったかわかりますよね。そうです、残っていた天辺の星を、お父さんは何の気なしに取り

付けてしまったのです、まだ全部の飾り付けが終わっていないのに。子どもたちは猛烈にお父さんに怒った、ということでした。

天辺の星はトップ・スター、星の研究をしていた博士たちが新しい王である救い主イエスの誕生を示した特別な星を表しています。他にも、ツリーの飾りはすべて意味のあるものです。ベルやラッパなどの楽器は、貧しく蔑まれた羊飼いにイエスの誕生という嬉しい知らせを真っ先に伝えた天使たちの歌声を、赤などのガラス玉は、エデンの園で禁断の木の実を食べてしまった人間の罪を、表していると云われています。

教会、幼稚園・保育園、学校でもベージェント（降誕劇）を演じることがあります。感染症蔓延以前は、附属幼稚園の園児が「今日は大学のお姉ちゃんたちにクリスマスのお話を届けてあげるんだ」と登園時間を早めて準備し、毎年このチャペルで演じてくれました。この二年間は上演がなく残念ですが、その配役は、マリア、ヨセフ、天使、羊飼いの羊、博士に聖歌隊も加わり、イエスの誕生を表現します。聖書から解き起こしたナレーションや場面に合う賛美歌、台詞による台本で成

立しますが、大切なのは設定です。もしかしたらわたしたち大人よりも子どもたちのほうが、ベージェントを通して「変わっている」家族に示された神の愛を体現しているかもしれません。

イエスは、誕生に際し何度も命の危険に晒されます。わたしたちは、イエスがこの世に誕生し、多くの人々に深い影響を与えた後に磔刑で殺されたことを知っています。その上で誕生物語を読むので、イエスの誕生は当然のことと受け取ってしまいます。でも、「聖霊によつて」との福音書の表現は、紀元一世紀のパレスチナにローマ兵が多く駐在する、言わば沖繩に似た状況を想起すれば、何が起こったかは自ずと答えが出ます。つまり、強制的、同意なしの性交渉によつて、マリアがイエスを身籠ったということです。これでは「正しい人であった」婚約者のヨセフがマリアと縁を切ろうとするのも頷けます。

パートナーに相手を明かすことのできない婚約中の妊娠、パートナーからの婚約解消の危機、出産直前の長旅、慣れぬ旅先かつ不衛生な家畜小屋での出産、出産直後の外国（エジプト）への長旅。これがもし幾つかのフィクションを含むものだと

しても、イエスがよく無事に生まれたものだ、神の助けなしには命は継がれなかったと感心します。

イエスとマリア、ヨセフを聖家族と言われますが、ページェントでは何をもって「聖」家族としますか。わたしは、私生児や片親、軍市政権下の被害者、外国からの寄留者たちこそ、神が特別な祝福を置いた「聖」家族として今年もクリスマスを迎えたいです。あなたは？

(二〇二一年一月三〇日)

クリスマス・チャペル

二〇二一年度終業チャペル

## 社会 脳

女子大学・短期大学 学長

高 橋 圭 三

社会脳。この言葉について既に十分知っている方もいるかもしれませんが。社会脳 (Social Brain) という言葉は一九九〇年にレスリー・ブラザースが使用し、社会認知能力に特に重要な部位として扁桃体、眼窩前頭葉、側頭葉をあげたことに始まっています。現在では心理学、経済学、哲学、などの領域が脳神経科学と融合してきた背景があるようです。特に行動経済学と脳進化科学が融合して、経済的な意思決定にとどまらずに、社会的意思決定に関わる神経基盤の理解の神経経済学が急速に発展しているようです。ここでは、前回私の六月でのチャペル (人は社会性の強い動物) と関連して人類が地球上で他の多くの生物をさしおき、なぜ地球上での覇権を得るに至ったかを考えてみたいと思います。そのひとつに脳の構造が考

えられます。タイトルは社会脳で、一言でいうと人間は社会性を営む様な脳の構造が遺伝子レベルで組み込まれているという事です。

最初から、脳の構造といっても難しいので、今までチャペルでお話してくださった先生がた、共通のテーマ「共同体で生きる」つまり、共生という概念から考えてみましょう。この「共同体で生きる」とか「共生」という言葉から思い浮かぶのは人間社会の社会性というイメージを払拭することができません。しかし、人間社会以外にもこの共同体や共生という概念は殆どの生物に言えることです。特に人類は社会性の強い生物として認識されています。太古の昔、人の集団は大きい集団でもおよそ四〇〇五〇人程度であったとされています。そのような集団が狩猟採取の生活で、獲物を求め移動しながら生活していたようです。彼らの多くは、穀物の栽培等の技術を得るにつれて定住化の生活に変わってきました。日本の社会科の教育では世界の四大文明として歴史教科書に紹介されています。古い順に黄河文明 (約七〇〇〇年前)、メソポタミア (約五〇〇〇年前)、エジプト (約五〇〇〇年前)、インダス (約四五〇〇年

前)と社会科等で習ったのではないかと思えます。それ以外にもいくつか文明と言われるものがあるようですが日本においては四大文明としてよく知られているようです。このように定住生活になり、幾らかは天候等に左右されるかもしれないが、計画的な作物を入手できるようになると備蓄が始まり、持てる者と持てない者、あるいは搾取し支配する者と収穫物を税として納め支配される者に分かれ、貧富の格差ができます。

四大文明もそうですが、ヨーロッパ等の城や宮殿は高い城壁や堀に囲まれており、常に外敵から自らの財産を守り、社会的地位を維持するための住まいとなっています。スライドはスペインのアルカサル城で白雪姫のお城のモデルになったお城です。お城の美しさはさて置き、難攻不落、外敵から自らを守り、威厳と富の象徴を主に建築設計されているように見えます。それとは反対に狩猟採取生活を維持しながら定住生活を始めた日本の縄文人はどうでしょうか。日本人の祖先である縄文人は狩猟採取生活でありながら三内丸山遺跡(約五九〇〇年前)のように定住をしていた人類史上稀な集団がいました。一部には栗畑のような

農業も営んでいましたが狩猟採取と定住が長らく継続していました。写真は北海道礼文島の船舶遺跡で発見された縄文後期の約三五〇〇〜三八〇〇年前の縄文女性の歯から採取したDNAゲノム解析により再現された女性です。四大文明より古く、文明という表現は使われていませんが縄文文化は一般的な学説では一万六〇〇〇年ぐらい前から始まっているようです。さらに、より古い時代ですが、沖縄にはDNA解析で現代日本人の祖先であると言われる旧石器時代の港川人約二万二千年前の人骨が発見されています。画像は見つかった人骨と、その人骨からコンピュータで再現された生前の姿です。日本列島にはこのようにかなり古い昔から集団で生活していた人類の痕跡があらこちらに点在しています。そこでは、小さな集団なのでお互いが支え合い共存共生していたのだと思われれます。同時に遺伝子の研究から、他の人類の歴史と異なり、性染色体であるY遺伝子が日本人の多様性を示していると言われています。つまり、皆さんも知っての通りY遺伝子は男性の性染色体です。他の民族のY遺伝子は主に一系統の比率が高いのに対して日本人のY染色体は多様性

に富んでいると言われています。これは、民族間の闘争がなかったことの裏付けではないでしょうか。民族間の闘争というのは敗者である民族の男性は闘いの戦闘員となる可能性があるので殺害されるか、奴隷として子孫を残す事ができないというのが通常のようなものでした。ですから闘争・戦争に敗れた民族のY遺伝子を後世に残すことは非常に難しかったのだらうと推測できます。それとは別に女性に関しては勝者の民族に取り込まれ混血ではあるけれど人口を増やす役割があったと考えられます。縄文時代から弥生時代に非常に緩やかに時間をかけて移行する中で渡来人（中国南東部）が日本列島に移動してきても闘争がなかった証拠に日本人のY遺伝子は縄文・弥生の両方の遺伝子が混在しており、平和的に混血が進んでいたというのが近年のDNA研究から定説になっているようです。ちなみに北海道と沖縄は縄文人、近畿四国は弥生人のY遺伝子の割合が多いようです。このことは、山や川そして海に囲まれた日本列島の土地は豊かな食糧事情があり、闘争をしてまでの領土を広げ食糧を確保する必要がなかったのかもしれないという事かもしれません。共存共栄は

我々の祖先から受け継いだ大切な財産であると言えます。

示しているスライド、これは私の実家近くの紫雲出山（約三七〇m）の山頂ですが、ここで弥生中期の遺跡が発掘されています。地層等の年代測定では弥生中期ということなのですが、それより古い一万年ほど前の縄文時代、あるいは石器時代であろうと思われる石器も多数見つかっていました。このような山頂での生活は平野部での農耕生活というよりも、縄文時代の狩猟採取を中心とした定住生活であったようです。そこには竪穴式住居跡や高床式倉庫跡から再現された展示物もありました。

さて、話を進めましょう。明治二年まで天皇陛下のお住まいであった京都御所を見てください。ここには高い堀も、高台の上でも、深い堀に囲まれているわけでもありません。国の帝である天皇陛下は誰からも攻略される立場ではなく、民と共に居たのだと思われれます。ここがヨーロッパの王宮と異なるところです。例えば、日本書紀や古事記等に仁徳天皇の治世が記載されています。有名な話で、当時、国を見渡した仁徳天皇は民家のか

まどに煙が立っていないのを見て、「これは民が貧しいからである。今、三年分の備蓄があるので、今後三年間は徴税を禁ずる」と命じたそうです。そのため、自らも衣服や履物は破れるまで使用し、屋根の茅が崩れても葺かなかつたと記されています。三年後再び高殿たかどのから見渡すと、人家の煙は盛んに上っていたという事ようです。三年間の徴税の禁止。その理由として仁徳天皇は「まつりごとの基本は民。民が豊かにならねば私も豊かになつたことにはならない。」と答えたそうです。民に生活力が戻ると民は大挙して都に集まり、自主的に帝の御殿の造営や納税に励んだと言われています。この「民のかまど」の話は仁徳天皇の仁政（じんせい…政治家が人のために尽くすよい政治）として知られており、仁徳天皇の名の由来になつているとも言われています。

話は変わりますが、共生ということから考えると、以前お話したかもしれませんが地球という惑星を考えると、ジェームス・ラブロックはガイア理論を提唱し、地球はひとつの生命体であるといっています。その地球上で生活する我々人間は地球という大きな生命体のひとつの細胞なのかも

しれません。我々人間の細胞は自分自身の意図とは別に日々新陳代謝を繰り返して、三ヶ月もすると殆ど人の細胞は入れ替わって、全く別の原子・分子で構成された細胞で生体が存在するようになります。しかしながら我々の意識はずっと継続して自分自身は変化していないという意識を持っています。もし、地球生命体にも意識があるとすれば何も変わらず四七億年の昔から私は私と主張するかもしれません。地球の歴史からすれば、蒸気機関の発明から始まった産業革命は加速度的に人間の生活様式を変容しています。今年の二月にイギリス財務省のダスグプタ・レビュウでは機械やインフラなど「人工資源」はこの二〇年間で倍増した一方、森林や海産物、鉱物などの資源を合計した「自然資源」は四割も減少したと報告しています。私たち人類の一番のステークホルダーである「地球に貢献できなければそれ以外のステークホルダーの利益は意味がない」と言われています。人工資源の倍増の背景のひとつは人口の爆発的増加ではないかと思っています。日本では人口は少子化問題が深刻化していますが、世界全体を見渡すと今や七八億を超えて七九億に手が届きそうな

勢いです。この人口の爆発的な増加は地球生命体にとってどのような意味があるのでしょうか。近年話題になる自然破壊やCO<sub>2</sub>問題について、私は地球生命体を病気にしているように感じます。そして昨年より世界の経済を脅かすコロナ禍はもとより、過去に発生した世界規模の伝染病は幾度となく繰り返されています。これは人口の爆発的增加への抑制なのでしょう。これらの環境問題やパンデミックは地球を生命体として考える時、地球上で全ての生物と我々は地球を構成するひとつの細胞として上手く共存・共生できているのでしょうか。私は生物学の専門ではありません。ましてや植物や動物その関連する微生物については数冊の本から得た知識しかありません。これからお話しすることに興味をもった方で詳しく調べたい人は図書館等で調べてください。

さて、共生ということを様々な生物の世界で考えてみましょう。植物（野菜など）と微生物（カビの仲間）の関係は共生と言って生存するために共に助け合う関係です。植物の根の周りを根圏といい、この根に関係する微生物を根圏微生物と言います。植物の根は根圏微生物から栄養を与えら

れます。植物は微生物のエネルギー源の栄養素を光合成で作った糖やアミノ酸を根から分泌し、微生物はその栄養を求めて植物の根に集まります。微生物は植物から排出される栄養分が欲しいために植物に無機物（ミネラル）をイオン化して提供し、植物の茎や葉っぱを太く大きくします。共生は寄生のような一方通行ではなく、お互いに必要とする関係性であり、Aが排出した不要物をBが命の糧として取り入れ、その結果産出されるBの不要物がAに必要な養分として吸収される。Give and takeあるいは Win-win の関係性であるとも言えます。また、植物の内部に入り込んで、ごく当たり前のように完全に同化している細菌や生物がいます。葉緑体は皆さんも良く知っているといます。これには独自の葉緑体DNAがあるようです。つまり、光合成を行う植物の共通の祖先が光合成を行う真正細菌や真核生物を細胞内に共生させたと考えられています。葉緑体の主な機能は光合成がよく知られており、光のエネルギーを用いて二酸化炭素と水から炭水化物を合成し酸素を発生させます。この光合成機能を考えると植物と人間は二酸化炭素と酸素の関係では共生している

と言えます。植物は人間が呼吸で排出した二酸化炭素を取り入れ人間に必要な酸素を発生させるわけですから、これもまた共生という言葉が一番ピッタリするのではないでしょうか。

さて、植物から動物に視点を移すと、我々人類の体内にも微生物が生存しています。最近、TVなどで腸内フローラという言葉が耳にすることが多いのではないかと思います。人の腸の中には一〇〇〇種類以上で、数にすると約一〇〇兆個の細菌が住み着いていると言われています。小腸と大腸の壁にある胚細胞は、厚い粘膜層を作って他の細胞を保護し、内腔の内容物（ウンチ）が動きやすくします。その粘液の中で細菌が棲息し、粘液を食べていることが分かりました。それは、植物が根圏に棲む微生物の餌として根細胞の表面から放出する糖質が人の腸の滲出液に似ています。人間の内なる土壌（腸）に棲む細菌の大群は、消化されなかった植物質や死んだ大腸細胞だけでなく、粘液も食べます。引き替えに、その微生物の代謝産物は大腸の栄養となり、その微生物の存在は病原体を抑制します。私たちの腸内にいる微生物のパートナーが、私たちが食べたものを材料に

して有益な化合物や防御物質を作る様子は、根圏微生物と植物の根の相互作用とそっくりです。

さて、人間にも植物の葉緑体と同じように細胞内に取り込んだ別の生物体があります。ミトコンドリアです。ミトコンドリアは母系由来であり、遡ると人類共通の祖先の猿人に辿り着くようです。このミトコンドリアは独自のDNAを持っています。一部のタンパク質を自前で合成しています。ミトコンドリアで細菌であるかのように振舞っています。ミトコンドリアの祖先の細菌は現在の機能と同じように酸素を使ってエネルギーを作り出していました。これは酸素を使わずにエネルギーを産生するのに比べ二〇倍ほどの効率化があるようです。この細菌（ $\alpha$ プロテオ細菌）を真核細胞生物が太古の昔に細胞質の中に取り込み共生を始めた。そして宿主細胞は共生の初期にミトコンドリアの先祖からDNAの大部分を削除して自らの核内DNAへ情報を移し替えたようです。そのことによって再びミトコンドリアが細胞外へ出て生きてゆけないようにしたことなのです。ですから、ミトコンドリアは生物細胞の中でその生物が取り込んだ酸素を使って炭水化物を分解

し、そのエネルギーを細胞内で使えるATP（アデノシン三リン酸）にしています。取り込んだ細胞とミトコンドリアの関係もお互いの利益がGive and take または Win win の関係かと考えます。

先ほど、酸素と二酸化炭素を例にとつて動物と植物の共生に触れましたが、さらに動物と植物は一方の生物の排泄物あるいは構造物がもう一方の生物の食物となる循環の一部を形成しています。植物は日光と二酸化炭素を使って光合成で酸素を排出し、水、窒素、リン酸、カリ等で成長します。動物は酸素を呼吸で消費し、二酸化炭素を排出します。そして、植物の根や葉、種子等を食物として成長します。食虫植物は虫を捉える動きをしますし、ひまわりは太陽の光を求めて花の向きを動かしますが、基本的には植物は食物や良い土壌を求めて移動することはありません。しかし、動物は運動という行為から環境に働きかけ、様々な自らの都合に合わせて快適に環境を変える方法をもち合わせています。

さて、その動物である人間はどのようにお互いが繋がっているのでしょうか。興味深い実験を紹介

します。一九六〇年代にスタンリー・ミルグラムが行った実験で、あらゆる人は平均して六次の隔たりによって相互に繋がっていることが示されました。この実験はネブラスカ州に住む数百人の人に一、〇〇〇マイル（約一、六〇〇km）以上離れたボストンのあるビジネスマン宛の手紙が渡されました。実験の参加者は直接の知人にその手紙を送るように指示を受けたのです。ただし、ボストンのビジネスマンとの個人的関係が自分よりも深そうな人に手紙を渡して欲しいということでした。そして、手紙が目標の人物に達するまでに、人から人へのステップがどれくらい必要か調査されました。結果は平均して六つのステップが必要だとわかりました。同じような実験で二〇〇二年にダンカン・ワッツ、ピーター・ドッズ、ロビー・ムハマッドの三人はFacebookを使って九万八千人を越える被験者を募り、世界中の目標人物に向けてメッセージを送るよう依頼しました。各被験者に目標の人物を知っていると思われる人にFacebookを出してもらったのです。よく言われるチェーンメールのようなものです。目標の人物は一三の国、一八人の候補者リストから各被験者に

対して無作為にひとり割られ振られました。

リストでは例えば

アイビーリーグのある大学の教授

エストニアの公文書記録官

インドのテクノロジーコンサルタント

オーストラリアの警官

ノルウェー軍所属の獣医

など

結果はミルグラムの実験と同じようにおおよそ六次のステップを経て「random」が目標の人物に届きました。世界はいかに小さいか！地球上に七九億人弱の人間が住んでいるにも関わらず、たった六次の隔たりで地球の裏側にいる赤の他人とも繋がっているのです。

さてここからは人と人との関係についての共生を考えてみましょう。六次の隔たりで示したように人の社会の広がりは無限のようで意外と人の輪はコンパクトであると言えます。そのような世界で、近年グローバリズムが各分野で取り沙汰されています。本来グローバリズムは国家主義、ローカリズムは地域主義と言えますが、世界規模で考えると、近年のネットワーク社会ではグローバリ

ズムを世界主義、ローカリズムは地域主義をベールにした国家主義と考えることもできます。アメリカの前大統領トランプの時代にアメリカンファーストとしてグローバリズムからローカリズムに舵を切り直したのはよく知られた事です。それ以前から、スマートフォンのような端末を誰もが手にする事ができる時代では、世界の情報がリアルタイムで入手できる社会になっています。同時に、日本人にとって言語の壁はあるものの、望みさえすれば仮想空間でアバターを使った商用活動は勿論、世界を席卷するコロナ禍のなかでも在宅ワークを含め、日本の自宅にいながらアメリカの大学の単位を取得する事が可能な時代になっています。中でもミネルバ大学は二〇一四年の開学以来、全授業オンラインで行われており今や、ハーバード、スタンフォードと並ぶ超難関校となっています。人類の叡智を効率よく学習する。あるいは企業として低額の税金で低賃金、ローコストの工業製品を生産する等の目的があればグローバリズムの波はかなり魅力的なものだと思われれます。その結果、特定の国に企業が進出し、いくのを私たちは見えてきました。タックスヘイ

ブンの問題も同じことです。しかし、このグローバルイズムの流れは自分自身の立ち位置、アイデンティティが明確でないと、人間社会の様々な分野での格差を拡大する一方ではないでしょうか。そこには自らが生まれ育った過去をしつかりと認識しつつ、自分自身を育ててくれた土壌を大切にすることが優先されるべき課題であると考えます。つまり、ローカリズムはアナログ的人間関係をベースにした社会活動であるのに対して、グローバルイズムは0と1、あるいは在るか無いかで構成されるデジタル的人間関係をベースにしているようにも思えます。

現代社会に求められるのは効率化を優先する仮想空間やデジタルでは無く、より人間的な関係性ではないでしょうか。近代以後の学習は入力が中心のように思われます。人類としての学習は入力だけではなく出力つまり、表現する事ができてこそ学習と言えるのではないのでしょうか。しかも、具体的表現、アナログ的表現でこそ、人と人は繋がっていきけるのではないかと思います。チャペルのテーマである「共同体で生きる」つまりは人と人とが特定の集団の中で Give and take あるいは

Win-winの関係性をもって生活を効率よく、より良いものにしていく関係性であると考えるところのような状況があるのでしょうか。以前、保育科や子ども専攻で授業をしていた時、私は学生の皆さんに何度もお伝えしていたのは体温の伝わる保育を目指してくださいという事でした。体温の伝わる関係性は物理的距離が近いということと同時に心の距離も近いことが必要です。

他者の心を理解するということで面白い実験があります。リゾラッティらは猿の脳波の実験で偶然F5腹側運動前野が他者の動きを反映して、自分自身の動きと同じ反応することを見つけました。猿は自分自身の手を動かしていないにも関わらず研究者が皿の上のものを摘むのを注視していただけで、猿が実際に摘んだ時と同じ脳部位のニューロンが発火したのです。このことから、リゾラッティらは脳には特定の行為に反応するニューロンが存在し、他者の行為を観察しているときにも同じ部位が反応すると推測しました。そして、このミラーニューロンにより、観察者は脳内で直接同じ体験をするために他者の行為や意図、感情などを理解できるとしています。さらに

ミラーニューロンは他者の行動の模倣や学習能力の基本となっている可能性を示唆し、さまざまなコミュニケーションや人間関係を助ける橋渡し役を担っているのかもしれないと言っています。

そして、問題になるのがASD (Autism Spectrum Disorder) 自閉症といった方がわかりやすいと思います。ミラーニューロンは感情の理解に関わる可能性があるのですが、自閉症の子どもに見られる共感能力の欠如に関わっている可能性があるとしています。具体的には、赤ん坊に離乳食を与える母親を思い出してください。母親は口を開けずに淡々としてスプーンで離乳食を赤ん坊の口に運ぶでしょうか？そんなことはありません。ほとんどの母親は「あーん」と言いながら離乳食を食べさせます。そのとき赤ん坊は自分自身の顔と大人の顔の間で直接視覚に基づいて比較する事ができません。ましてや、鏡を見て自分自身の口の開け方を学習したわけではありません。赤ちゃんの早期模倣は自分自身の視覚世界にある他者の動きと赤ちゃんの内的状態との間を結びつける最初の例であると言えます。次のスライドはうちの孫と言っても現在では小学校六年生ですが

……。新生児模倣といって生後三週間ほどで見られる母親の表情の模倣です。この子の目の前には母親がベロベロブーをしていて、舌を突き出しているのを見て生後三週間の孫も舌を突き出す模倣をしています。ラマチャンドランらはミュー波（脳波の一種）、これは随意運動を行うと抑制される脳波ですが自閉症にはこのミュー波の抑制が少ないことからミラーニューロンの不活性を指摘しています。こういったミラーニューロンの不活性なことから他者理解にミラーニューロンはとて大切な脳ニューロンの活性・発火であると考えられています。このミラーニューロンが発火することと他者理解を容易にし、他者の意図が読め、他者のもつ知識の共有と理解ができると考えられます。

これは一〇数年前、南オーストラリア州にあるアデレードのベッドフォードグループの休憩中の作業現場です。ベッドフォードグループはオーストラリア最大の福祉施設グループです。自閉症の方はカメラを向けてもニッコリともせずポーズを変えませんがダウン症の方はカメラを向けた意味が分かって笑顔まで返してくれました。同様に次

はダウン症の方の作業中の写真です。彼はサービ  
ス精神旺盛で見学者である私に気づくと作業を止  
めて私の持っていたカメラを案内してくれていた  
スタッフに渡して、一緒に写真を取ろうと言いつ  
つ出しました。社会性という面では自閉症とダウン症  
はまるで対局にあるかのようです。

社会性。他者との関係性を生活の中で楽しみ、  
それをひとつの集団の構成要素であると考えら  
れ、その対極にあるのが闘争であるといえます。  
古代ギリシアで始まった古代オリンピックは当  
時、都市国家間での慢性的な争いが起こって  
いたのを聖なる休戦エケケイリアと呼ばれる休戦  
期間を設けた祭典競技が始まりと言われています。  
つまり、闘争の代わりにオリンピックが設定  
されたのでしょうか。このスポーツでの競技を英語  
で Competition と言いますがその語源はギリシャ  
語の Competen から来ているようです。しかし、  
ギリシャ語での語源 Competen は競争とか争う  
という意味ではなかったようです。本来は共に生  
きるという意味をもっていました。しかし、現在  
の人間社会での Competition はそれが歪められ、  
生き残る手段という概念がその中核を占めていま

す。ギリシャ人にとつての Competen (競争) の  
概念というのは、相手の力を使って自分の力を引  
き出すという意味で、相手を敵とみなし、何が  
あっても相手に勝とうとすることではなかったと  
考えられます。競技は相手がいるから、自らの競  
技能力を高めるモチベーションになり、より高い  
競技能力を身につける事ができるということであ  
りましょうか。日本語的に解釈すると「切磋琢磨」と  
いう言葉が似つかわしいような気がします。ま  
た、聖書の創世記に示されている一節を考えてみ  
ましょう。

神はご自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

この一説の男と女に創造された。という文節は  
頼りないところを補い合って生きる。互いに共生  
するということのように私は理解します。男と女  
を同じ世界に住む人と人であると解釈すると、お  
互いの違いを認めるということであり、人と人は  
全く同じという事はない。お互いの共通性と違い  
を認めながら生活するという意味が含まれている  
のではないかと思います。

本日のタイトルを社会脳とつけましたが、実際には脳の解剖学や大脳生理学的な内容やその機能の話はほんの少しで、周辺関連の話に終始してしまいました。最後に、相手を思う気持ちは大切ですが間違った方向で負のスパイラルになってしまったという話をします。加藤篤志先生は「共依存」を自己自身に対する過小評価により、他者に認められることによってしか満足を得られない状態であるとしています。それは、他者の好意を得ようとして自己犠牲的な献身を強迫的に行うことで満足します。そして、その献身は結局、他者の好意をコントロールしようという動機に結び付いていると言えます。その結果、その行動が自己中心的、策略的なもので、その他者との関係性から離脱できなくなるようです。

共依存と相互依存ということで説明すると、具体的には依存というのは甘えたい心が強く、自分だけが得をしたいという気持ちの何処かがあり、与えると損した気がすると思われるような無意識が働きます。さらに、問題を自分で解決する自信がないなどの理由から、他人に頼り気味になり、次第に自由が無くなっていく状態を依存性か

強いと言います。そして共依存というのは支配したい心が何処かにあり、他者の好意や優しさを受け取る事を自分で禁止してしまいがちです。その結果、愛を受け取れず満たされない状態が続き、次第に心がひからびてしまうようになります。共依存の典型例は、アルコール依存症の旦那さんを奥さんが「私がいないとだめな人だから」と言っていて面倒見るケースに見られます。世話をする奥さんの側は、相手である旦那さんを奥さんに依存させてしまつて、旦那さんの生活力を奪つて、支配する結果になります。一方、奥さんは愛を与えるばかりの境遇に心が疲れ果て、ぼろぼろにならながらも、相手を支配する現在の状態を捨てられないという状態が継続するのです。これも、ひとつの依存の形ですか、特別に共依存と言います。つまり、お互いに与えてくれる相手に依存、受け取ってくれる相手に依存、という形で依存し合っているから共依存ということになります。

相手の人間性の尊厳を認め、お互いに上昇する正のスパイラルになるような関係性でないと、いくら相手のことを思っているといつても、このような負のスパイラルである共依存の関係性に陥り

がちです。冒頭でも述べたように人間は社会性の強い動物です。お互いがお互いを大切に思い、所属する集団の絆を深め確固としたローカリズムを構築した上でのグローバリズムは大切ですが、其依存のような関係性の中での社会脳は考えものです。今日のお話の中で Give & take とか Win-win の関係ということを何度か話しましたが、そのような関係性よりもむしろ、寄り添い、見返りを期待しない他者への優しさ。何気なく、さりげなく、無意識レベルで自然発生的に湧き出るその人らしさの気配りが大切ではないかと思っています。

日本には「おもてなし」という言葉があります。誠心誠意心を込めた「おもてなし」もそれを受ける立場は気持ちの良いものですが、ここ四国にはお遍路さんの文化があります。お遍路さんに対しては「おもてなし」ではなく「お接待」という言葉が使われます。私が子どもの頃、爺さん婆さんが田んぼで野良仕事の合間にお茶を飲んで休憩しているところをお遍路さんが通りかかると、「いっぱいお茶でも」といってお茶やお煎餅を差し出し、ちょっとした雑談をしていました。まさに、何気なく、さりげなく、ごく日常生活の一部

として赤の他人であるお遍路さんとの会話に喜びを感じていたのでしょう。そのような、さりげない優しさに包まれた社会では争いや、いがみ合いというのはないかも知れません。

本日は社会性ということから共存共栄そして共生ということについて考えて欲しくて話題を提供してみました。

(二〇二二年二月二日)

## 二〇二一年度 チャペル・アワー行事

全学（火曜日）

司式 檜林 鈴子

祈禱 水島 祥子

奏楽 小池美知子・河内 奈穂

月 日	行 事 ・ 題	講 話 者
6月8日(火)	二〇二一年度始業チャペル 〈新人生歓迎チャペル・開学記念チャペル〉 「図々しく前進しよう」	松山東雲学園 理事長 小西 靖洋
15日(火)	「人は社会性の強い動物」 「防犯対策及びSNS等のトラブルについて」	女子大学・短期大学 学長 高橋 圭三 愛媛県警察本部 生活安全部 人身安全対策 少年課・サイバー犯罪対策課
22日(火)	〈春季特別礼拝〉 「必要な時間」 「学生生活について」	松山桑原キリスト教会 牧師 安井 光 保健室 菊池 貴子
10月5日(火)	〈後学期始業チャペル〉 「チャペル・アワーのテーマについて考える」	女子大学副学長／心理福祉専攻 教員 森 日出樹

30日(火)	16日(火)	9日(火)	11月2日(火)	26日(火)	19日(火)	12日(火)
<p>「アドベント・チャペル」 「周縁化された世界に響く福音」</p>	<p>「多職種連携について考える (スポーツ栄養の観点から)」</p>	<p>「女性のからだに関する講話」</p>	<p>〈秋季特別礼拝〉 「デートDV防止について」</p>	<p>「コンピュータと共同体」</p>	<p>「広島平和学習報告」 「友だちと一緒に過ごそうで大事なことは何だろう」</p>	<p>「薬物乱用防止」 「楽しい学生生活を送るために」 「感染症について」</p>
<p>松山東雲学園宗教主事／中・高教諭 水島 祥子</p>	<p>短期大学 食物栄養学科 教員 栗原 和也</p>	<p>松山市保健所</p>	<p>愛媛県人権擁護委員 馬越 菊子</p>	<p>短期大学 現代ビジネス学科 学科長 若原 拓己</p>	<p>短期大学 食物栄養学科 学生 高橋 彩 短期大学 保育科 教員 檜林 衿子</p>	<p>中予保健所 短期大学 保育科 教員 河内 奈穂 保健室 菊池 貴子</p>

12月7日(火)	<p>〈アドベント・チャペルⅡ〉          学生有志による紙しばい・ピアノ演奏</p>	女子大学 子ども専攻 学生 稲田 美優 大倉 千怜 八束 星来 女子大学 心理福祉専攻 学生 小倉詩絵里 本村 朝香 短期大学 保育科 学生 石川 杏優
14日(火)	<p>〈アドベント・チャペルⅢ〉          同窓会「雪びら奨学金」授与式</p>	松山東雲学園 同窓会 会長 菅田 栄子
21日(火)	<p>〈クリスマス・チャペル・二〇二一年度終業チャペル〉          「社会脳」          学生会役員認証式</p>	女子大学・短期大学 学長 高橋 圭三

黎明（しのめ）

（チャペル・トーク集八号）

二〇二二年三月発行

松山東雲女子大学

松山東雲短期大学

キリスト教センター



松山東雲女子大学・短期大学 キリスト教センター